

総務文教常任委員会審査日程

日 時 令和 7 年 1 2 月 1 5 日（月）

午前 9 時から

場 所 第 1 委員会室

～審査内容～

- 1 所管事務調査 中学校部活動の地域展開について
- 2 所管事務調査 埴生小学校・津布田小学校跡地の利活用について
- 3 その他

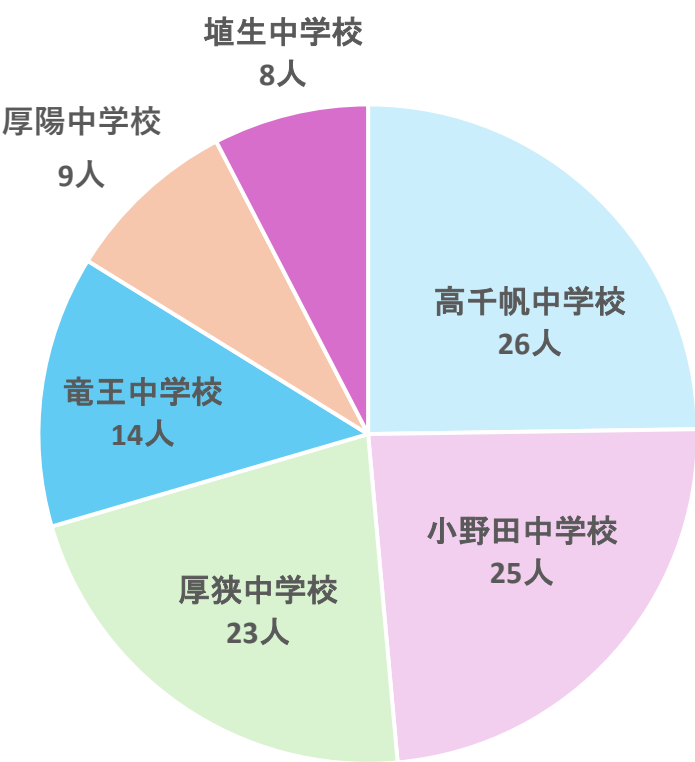
部活動の地域展開に係る 教員向けアンケート

対 象：市内全中学校教員

実施期間：令和7年9月12日～10月10日

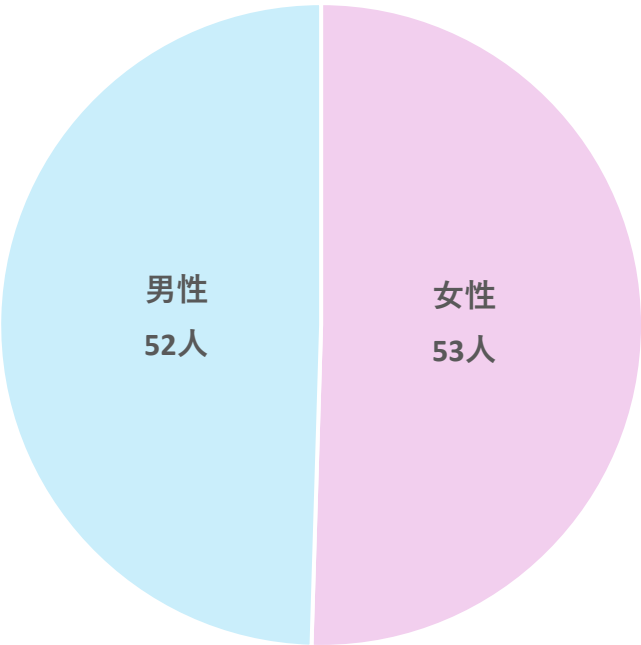
回答人数：105人（対象者数：約150人 / 回答率：約70％）

問 1 中学校名を選択してください



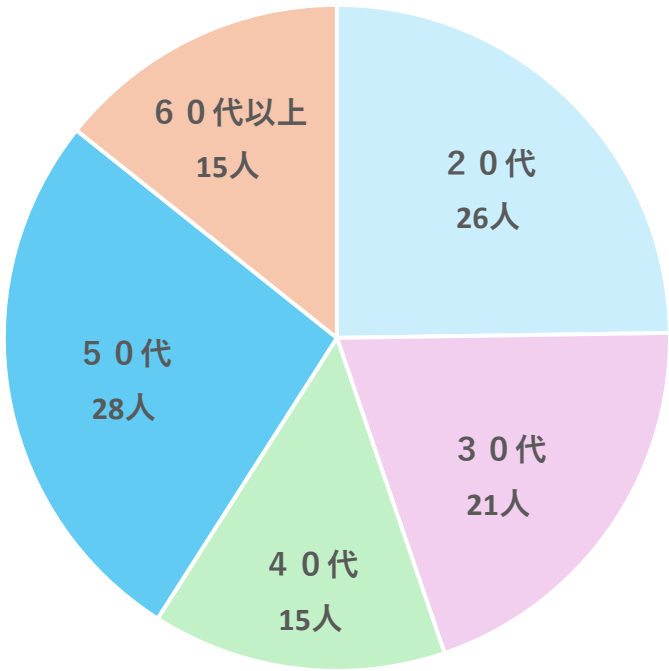
※回答該当者：105人

問 2 あなたの性別を教えてください



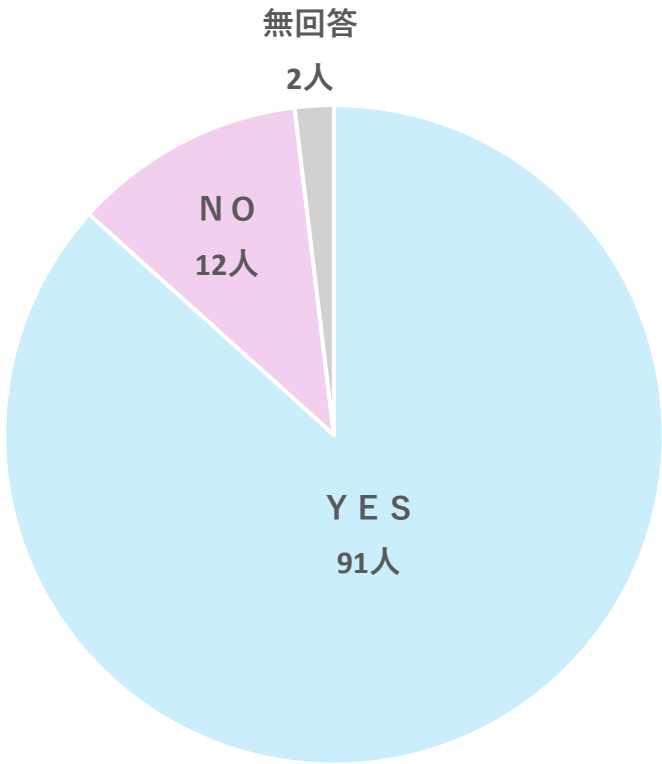
※回答該当者：105人

問3 あなたの年代を教えてください



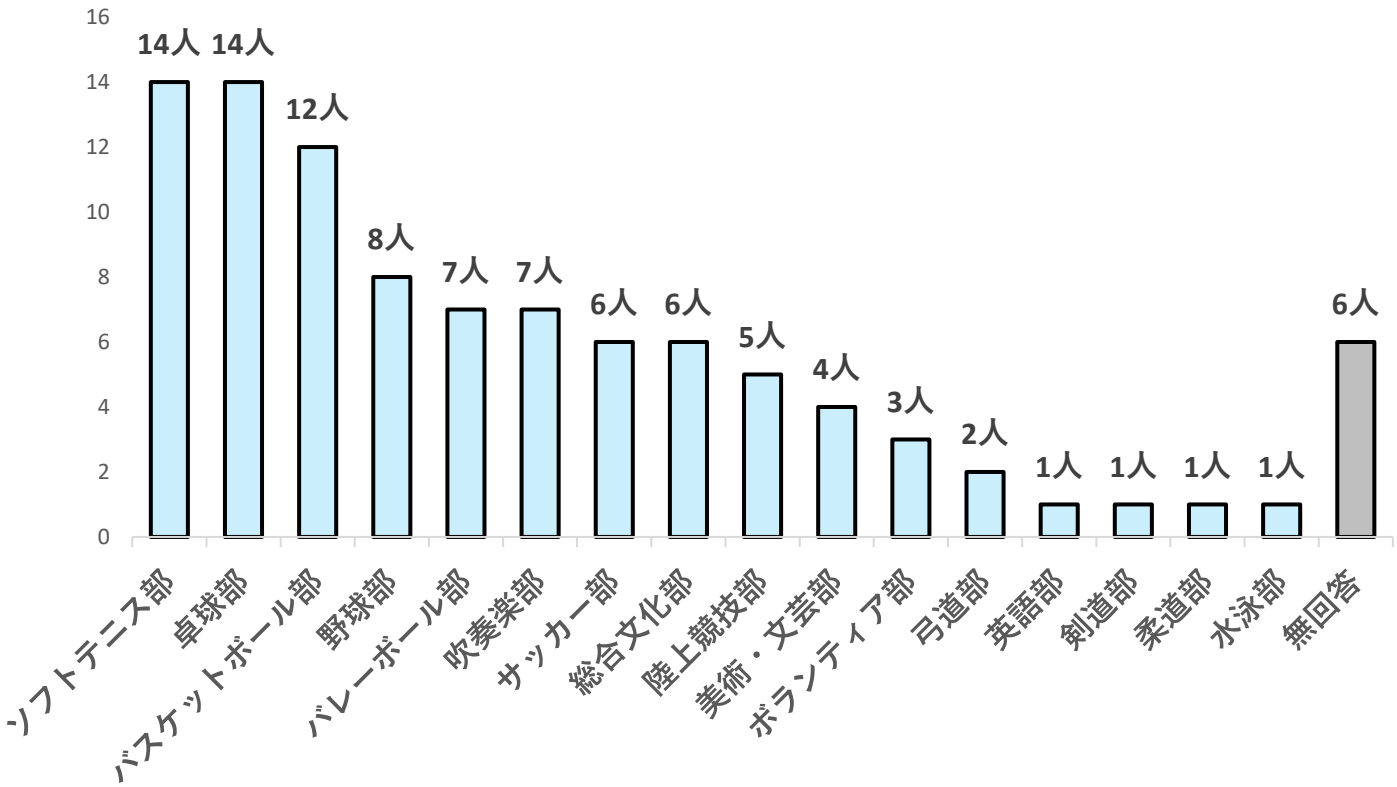
※回答該当者：105人

問4 現在部活動の顧問を受け持っていますか



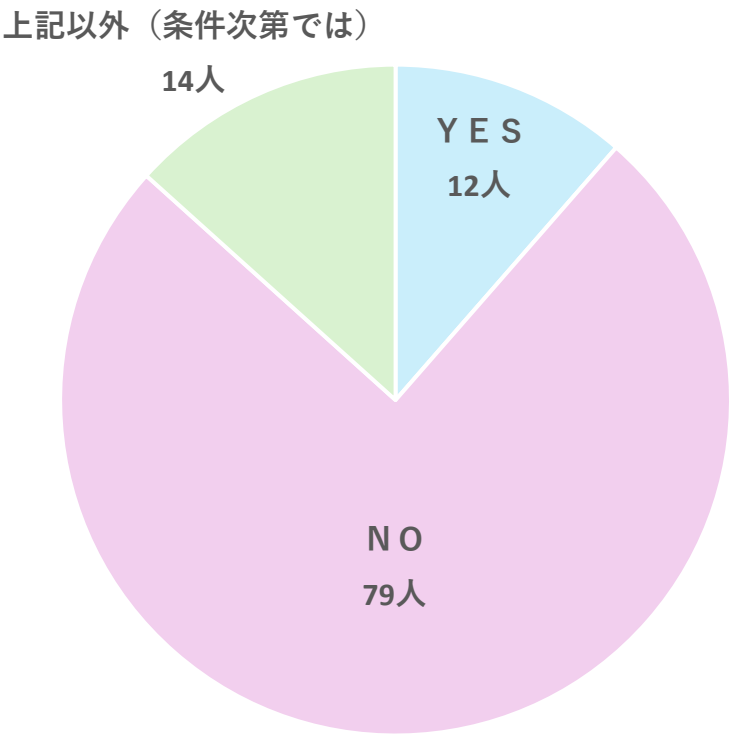
※回答該当者：105人

問5 現在、受け持っている部活動を御記入ください



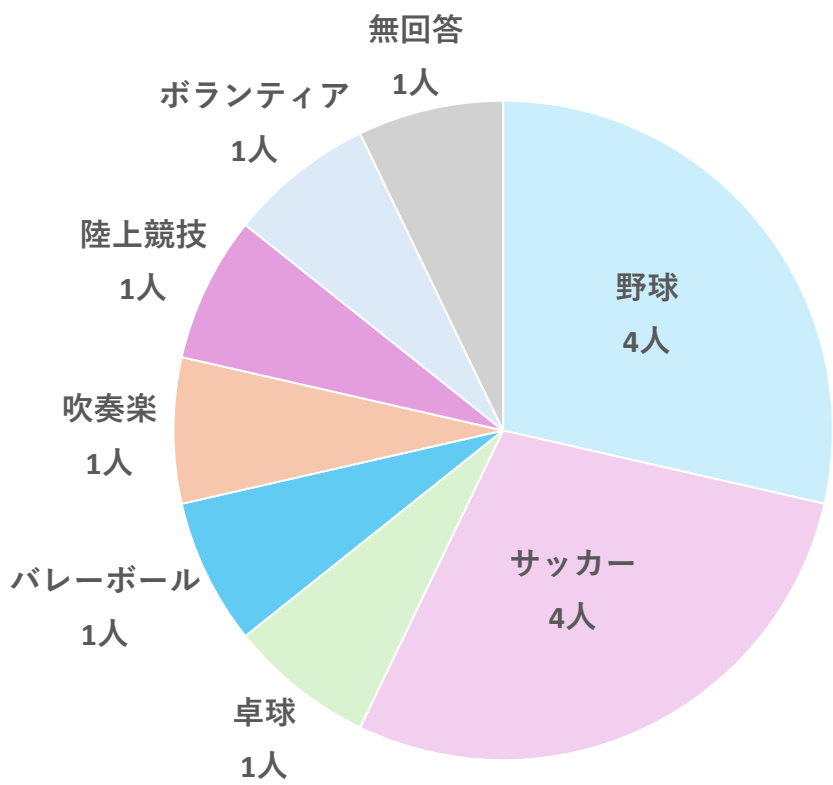
※問4-YESのみ回答(回答該当者：91人)、複数回答有り

問6 令和8年度の新体制以降、山陽小野田市の地域クラブ活動の指導者を受け持って良いと思いますか



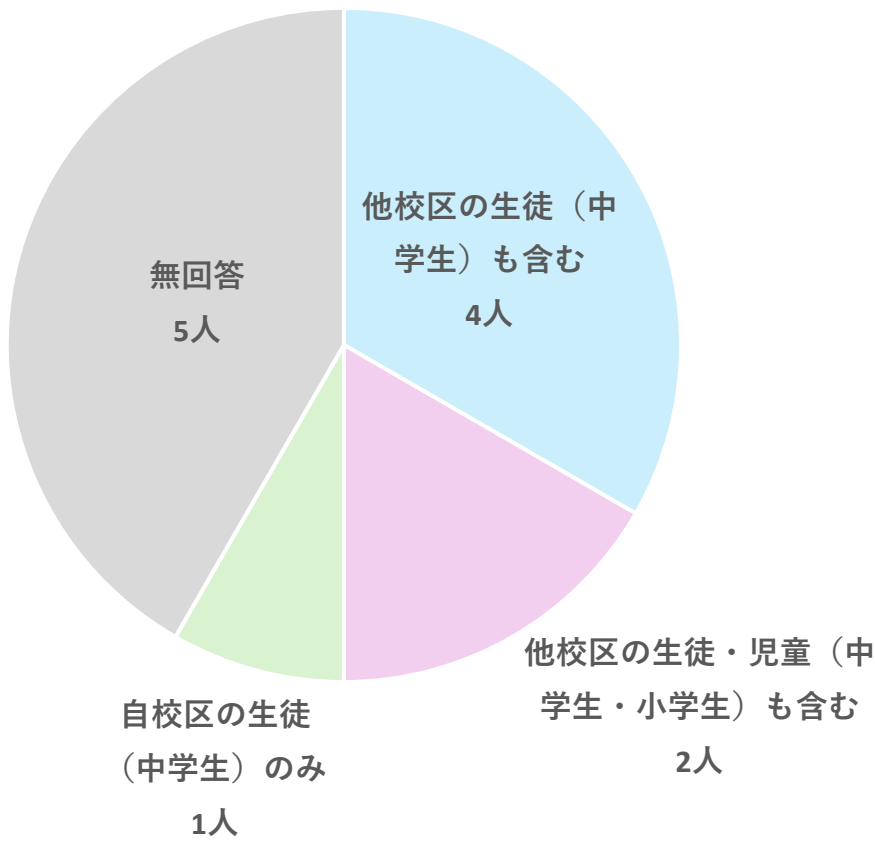
※回答該当者：105人

問7 どの種目であれば受け持って良いと思いますか



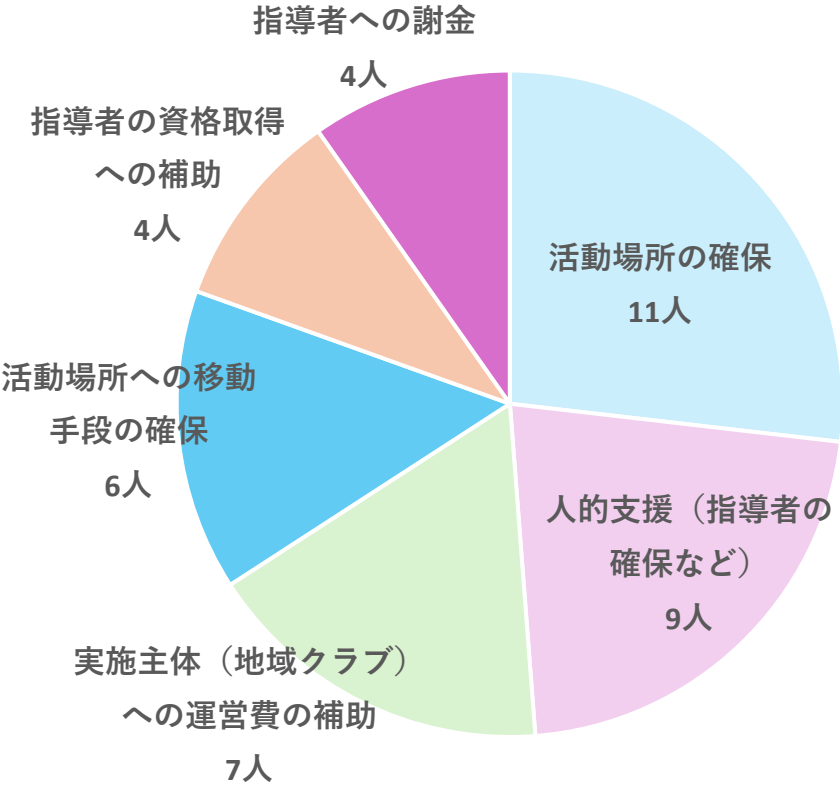
※問6-YESのみ回答(回答該当者：12人)、複数回答有り

問8 受け持つ場合、参加者はどの範囲まで受け入れると考えますか



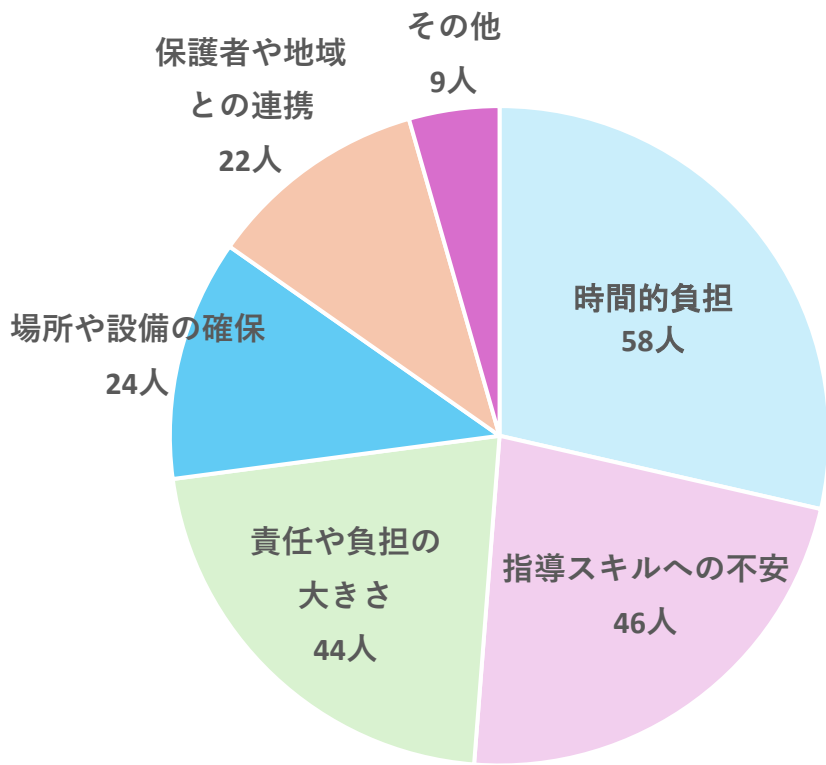
※問6-YESのみ回答(回答該当者：12名)

問 9 地域クラブ活動の支援で重要視されるものは何ですか



※問6-YESのみ回答(回答該当者：12人)、複数回答有り

問 1 0 地域クラブ活動の指導者を受け持つことが出来ない理由をお答えください



※問6-NOのみ回答(回答該当者：79人)、複数回答有り

その他（自由意見）

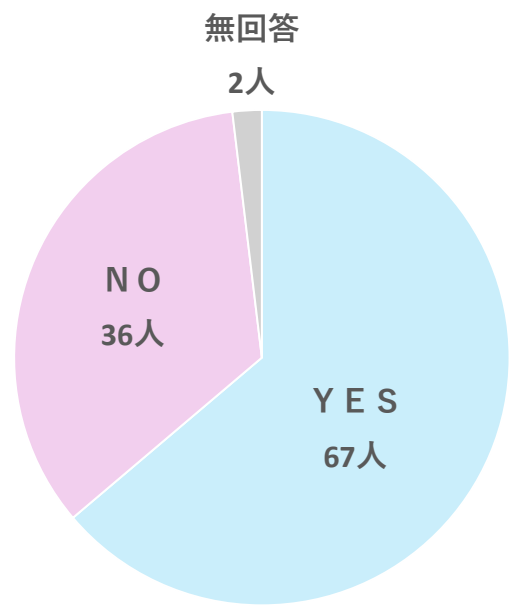
- ・ 学校教育の一環ではなくなるため。
- ・ 部活動は教育課程外であり、教員の仕事ではないと考える。教員は授業（生徒の学習活動）が役目であり、部活のために教員になるということ自体、本来間違っていると思う。
- ・ 休みの日まで働きたくないため。
- ・ 教職員の負担軽減のために部活動移行を推進しているのに、この質問の意図がわからない。
- ・ 勤務条件や手当などが明確化されていないため。
- ・ 地域クラブ活動に従事する気持ちがないため。
- ・ 他市勤務になるときに十分な引継ぎの時間の確保が難しいため。
- ・ 山陽小野田市を出る可能性が高いため。
- ・ 家庭の事情ため。

問 1 1 その条件とはどのようなことですか

- ・活動時間と自分の家庭の両立や、報酬面
- ・勤務や家庭の状況による。
- ・居住地が下関で、勤務先次第となるため。
- ・交通費支給
- ・日数や場所等
- ・拘束時間や強制力等
- ・活動する際の保障（活動費・運営費・年休など）、スタッフの人数、何かあったときの責任の所在、日ごろの学校での業務の負担の軽減等
- ・主ではなく、サポートする程度であれば可能。会場の手配、一斉連絡などは市で一括して行ってほしい。
- ・クラブチームの代表や主となって活動するのは負担に感じる。指導すること自体はしてもいいと思う。
- ・1人だけでなく、何人かサポートに入ってもらえるなら指導、またはサポートにまわることは可能。
(仕事や将来、産休や育休などに入ったときの間、指導が難しいと思うため、そこが気になりなかなか判断するのが難しい。)
- ・専門の種目であれば、頼まれれば引き受けると思う。
- ・競技による。専門的な指導ができない。
- ・クラブ活動では、楽しむことよりも強くなることに重きを置かれている印象なので、楽しみながら強くなるような環境があれば。
- ・地域の指導者が見つからなければ。

※問6-上記以外(条件次第では)のみ回答(回答該当者：14人)

問 1 2 令和 7 年 6 月 2 3 日付け山陽小野田市教育委員会学校教育課長名にて
発出した「教職員が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業について」
の通知を詳しくご存知ですか



※回答該当者：105人

問 1 3 どのような点が理解できていないですか

- ・ 広く全般的に理解が浅い
- ・ 理解するほど読み込みが出来ていない
- ・ まだ通知を見ていないので分からない
- ・ 自分自身が該当者になる可能性がゼロに近いため、詳しく読んでいない。
- ・ 存在自体をあまり知らない
- ・ 全体像、教職員の負担と保証
- ・ 待遇、権限
- ・ 職務遂行への支障がないようにするための具体的な取り組みについて理解できていない。
(部活のない平日でさえ、勤務時間で帰宅することがほとんどできていない現状にも関わらず、教職員が地域クラブ活動に従事しては本末転倒であると思う。加えて、本務への支障や健康管理の観点からも、そもそもなぜこの議論になるのかわかりません。)
- ・ 指導にあたっての報酬
- ・ 兼職兼業の条件
- ・ 兼職兼業の範囲（勤務時間との関係）
- ・ 具体的にどのような体制でクラブ活動が行われるのか
- ・ 学校での業務は従来通りこなしたうえで、地域クラブ活動を行うことになるのかどうか

※問12-NOのみ回答(回答該当者：36人)

問14 当面の間、どのような仕組みであれば、地域クラブ活動は成立するとお考えですか

- ・地域クラブの確保が不可欠だが、学校での部活指導の経験者が関わらないと難しいのではないか。
- ・どのような仕組みであれば、地域クラブ活動が成立するかは分からないが、教員がこのまま指導者であることを期待すると難しい。
- ・指導できるコーチがいれば成立すると思う。
- ・地域に活動場所と指導者がいれば成立すると思う。
- ・既存の市内、市外のクラブに移行する。
- ・今すでにある団体に依頼し、そこから広げていくことで、地域クラブ活動は成立しやすくなると思う。
- ・地域クラブで活動しているクラブに所属する。
- ・既に活動している地域クラブで活動する。現在担当している教員が受け持つ。
- ・外部の指導者の方や活動場所などが確保できていない現状では、教員が頑張らざるを得ないのではないかと思う。
- ・地域クラブの運営を学校の教職員が中心になって担うようになると、学校部活動の運営よりもさらに大きな負担（練習会場の確保や様々な手続きの問題など）になると思われる。運営主体は教職員以外の方が中心になり、指導者の立場として教職員が携わることができれば、関りがもちやすくなると感じる。
- ・教員が部活動を引き継ぎながらする。
- ・教員が立ち上げまでに介入しないと難しいと思う。種目によっても格差があると思う。
- ・教員が地域クラブ活動の成立を進めていくことは、とても負担が大きい。ただ、長年やってきたことをすぐに行政や地域に引き継ぐのは難しいので、しばらくは互いに協力しながら進めていくしかないと思う。
- ・いきなり地域にお願いするのではなく、教員も数名入りながら、地域と協力することで生徒も指導者もスムーズに移行できるのではないかと思う。
- ・地域の方も仕事をしているので、クラブ活動を地域の方にまかせっきりというのは難しいと思う。日ごろの学校の業務との兼ね合いや、競技の指導以外の煩わしい部分の負担がなくなると手伝ってもよいという教員も増えるのではないかと思う。例えば、行政が総合クラブチームを立ち上げ、行政が運営していく。ソフトテニス部門や野球部門など、いろいろな競技の指導ができるスタッフを募集し、手当や大会参加費・活動費などは行政が負担する。
- ・指導者の確保
- ・地域人材の確保
- ・保護者との連携、指導者の確保が重要だと思う。
- ・指導者に十分な報酬が支払われること
- ・地域の方々への働きかけ
- ・専門知識を持った指導者の確保（ボランティアではなく）と、生徒の交通アクセスによる差異の払拭。

- ・予算をしっかり確保し、競技を絞って優秀な指導者を招くことが必要。指導者には十分な報酬を用意し、その活動をSNSなどで積極的に発信することで、山陽小野田市で小中学生のスポーツ指導を本業にできることを広く伝えるべき。そうした取り組みで指導を希望する人材が集まり、さらに優秀な指導者が増えれば、子どもたちが集まり、転入者の増加にもつながると思う。結果として税収が上がり、地域クラブの収入も増え、良い循環を生み出せるのではないかな。最初の段階は負担も大きいかもしれないが、小さな取り組みにとどめず、思い切った方策を検討してほしい。
- ・活動に無理なく、且つ指導者・生徒ともに充実感の持てる仕組みづくり
- ・活動時間について、もう少し指導者に裁量がある方が良くと思う。活動場所への移動手段がない生徒への支援の方法（マイクロバスの運用、公共機関利用の補助など）を具体的に示す。
- ・活動場所と指導者の質
- ・責任の所在を明確にするために、学校教育と切り離し、社会教育が中心となっていく。指導者確保と雇用条件を明確な文書とし、非常勤の職員として市が採用して身分保障をする。中体連や各所の競技団体（〇〇協会、〇〇連盟など）との協力体制を市が主体で整備する。教員の位置づけを他の指導者や指導補助協力者と同じにして、教員に集中した偏った責任を負わせない。
- ・指導が職業として成立する。生徒の送迎が無償で行われる。ある程度練習会場が固定される。トラブル等対応機関が市にある。
- ・指導者と活動場所の確保、上記の確保のための財政面での行政支援
- ・指導者と場所の確保。指導者の給与面等の待遇の確立。生徒の移動手段の確立。
- ・まずは指導者の確保、練習場所・練習時間の確保。大会に参加するのであれば、新しいユニフォームや新しい道具、遠征時のバスや車の手配、指導者の交通費・謝金、大会登録費参加費宿泊費などの活動資金が必要になるので、金銭面の事も考えたうえで活動を開始するとよいのではと思う。
- ・指導者の方へのコーチ料や、交通費等の金銭的な支援
- ・軟式野球部においては、厚狭中・小野田中・竜王中・埴生中？は現在1年生が9名いない状態である。旧山陽町と旧小野田市でチームを作り、練習会場は厚狭球場と山陽小野田市野球場を使用する方向性が考えられる。教職員は資格を保有していませんので、現任教職員が指導者をするのは困難だと思われる。
- ・吹奏楽は、楽器の維持管理の費用または新規購入費、練習場所、指導者の確保が問題だ。これらの課題解消のために、
 - 1.山陽小野田市役所内に山陽小野田市吹奏楽協会を作り、地域クラブ団体を山陽小野田市が市の団体として立ち上げる。
 - 2.練習会場を小野田市民会館にし、楽器は市民会館で維持管理する。
 - 3.指導者については、定期的に指導できる指導者がいない場合は、指導可能な教員が行う。
 - 4.楽器の維持管理等の費用やコンクールに出場するための活動費等については、ネーミングライツを導入し、地域クラブの団体名にスポンサー企業等の名前を冠することにより確保する。
- ・市内には吹奏楽の団体があるので、そちらに参加する形であれば吹奏楽をしたい子たちではできると思う。
- ・学校とは切り離して、地域のコミュニケーションスポーツとして支援（指導）してもらおう。

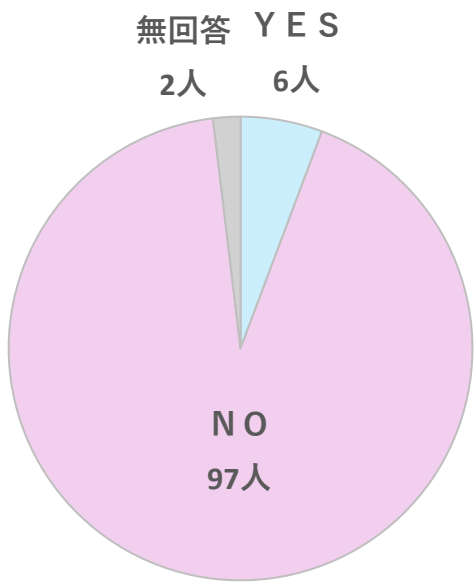
- ・学校と完全に切り離して、新しく地域の習い事的（スポ小、市民楽団等）な位置で新たに募集し、活動していかなければ継続的な活動は難しいと感じる。保険の費用、活動にかかる消耗品等家庭の金銭面の負担が増すかもしれないが...
- ・完全に学校と切り離し、地域の活動として立ち上げ、運営していく
- ・受け皿がちゃんとあるかどうか
- ・参加可能な大会などを含め、児童生徒が目標を持って取り組める体制であればよいと思う。
- ・学校の場所解放、楽器の貸出
- ・従来通り中学校教員が指導する
- ・部活動の数を減らしていく。また、地域の人で受け持てる人を募る。
- ・正直分らない
- ・難しいと考える
- ・地域クラブに過大な期待が無いこと
- ・地理的、経済的な問題を考えれば、かなり難しいと思う。
- ・経済的負担の減少、送迎
- ・先ずは指導者を確保すること
- ・無理のない程度に練習を行う、指導者の確保
- ・複数校合同や外部団体との連携をする
- ・その競技を統括する方と連携がきちんと取れば良いかと思う。
- ・学校区ごとの地域クラブだと人手の問題があるため、兼職兼業が可能な教員に加えてクラブチームの指導者と連携し、複数校が合同で活動する。
- ・複数の校区がまともだと活動場所が自宅より距離がある生徒も出てしまうので、距離や送迎の負担がないようにバスなどの輸送形態があると、多くの参加しやすくなるのではと考える。団体活動による生徒の成長は今までの部活動の中でも期待されており、それを継続させるためには、より多くの生徒が参加できる条件の一つとしてあってもよいのではと思う。
- ・スポ少と中学校の部活動の折衷
- ・完全なクラブ化（月謝を徴収するなど）
- ・学校と同じ時間帯で動くことができる指導者がいること。導者が複数いて。足並みをそろえて指導に当たれること。責任の重さに見合う報酬を準備すること。
- ・中核となって全体を把握する人が必要で、その方は必ずしも指導者でなくてもいいのかもしれない。合わせて、多くの指導者の中心となる人も必要だと思う。生徒が活動場所に移動する方法として、市でマイクロバスを用意するとか、既存のバス、電車の利用料金の助成をするなども考えてもらえると、多くの生徒が地域クラブ活動に参加しやすいと思う。
- ・指導者の確保のために十分な報酬を支払う。
- ・その後も継続して指導することのできる指導者を探すこと。練習試合などを取ることでできるようにいろんな学校との連絡網があること。各種大会等の運営もできるように今のうちからその運営の仕方等は勉強しておくこと。報酬面で高額になり過ぎないこと。
(周南市は高額で実施しているため保護者負担がかなり大きく、競技から離れる家庭もる。)

- ・市としての流れを把握出来ていないため、運営面が回せない事が多い。どうにかしようとしている人たちも働いている、ということを考えると、市が移行のノウハウを作成して、民間が活用する方法を考えるべきではないか。
- ・試合の時のみ引率を認めれば、土日の練習がなくともまだ良いように思う。
- ・管理組織が立ち上がるまでは、市がそれを受け持つ。その後NPO等の管理主体に移行する。全ての種目が同様の条件で実施できるよう、調整する。種目ごとの単独の扱いとなると、後々運営が厳しくなると考える。
- ・ボランティア活動等で賄える内容であること。時間的拘束が可能な人材がいること。企業や職場の理解が得られる社会作り。地域保護者の理解。
- ・指導者が見つかるまでは、保護者が務めたらよいと思う。
(自分の子供がやりたいことで、指導者がいないのであれば、自分の子供のために、その保護者が指導すればよいと思う。)
- ・経済的負担の減少、送迎
- ・無理のない程度に練習を行う、指導者の確保
- ・結局のところ、教員の負担になると考えている
- ・現時点では、兼職兼業を推進しなければ子どもたちの活動の場が確保できないと考える。しかしながら、希望した指導者のみならず、所属する学校の教職員への負担も考えられる。教職員の定数増加。本来の業務に影響のないようなクラブ活動の開始時間。終了時間への配慮。緊急時対応のため、複数指導者の配置。指導のみに専念できる環境づくり（運営管理の委託）。移動時間が抑えられるよう指導者勤務校がクラブ活動の会場。活動に見合う報酬。それが難しいのであれば、地域指導者の基準を下げ、選定強化。
- ・組織の体制づくりが整っていることが大前提だと思う。
- ・地域移行8年度完全実施ですが、すべての種目がスタートするのは難しいのではないかと
思う。学校で勤務時間内は面倒を見て、地域クラブが立ち上がるのを待つしか無いと思わ
れる。行政も市内外を問わず、指導者やクラブチームを募集し、リストにしておく。資格
がない、指導が不安ところに紹介する。市外から希望する指導者・チームがいれば積極的
に採用する。
- ・部活動では考えられないほど高額報酬があれば、そのスポーツをやりたい人が指導する
と思います。
- ・まずは市が運営面のサポートをする。
- ・サービス残業の形をとらないこと。部活時間の歯止めがあること。
(子どもにとって、部活が勉強の逃げになってはならない。)
- ・地域クラブではなく、現状維持の部活動継続であれば上手くいく
- ・地域クラブ活動の指導者に相応の指導費があること。教員が指導者となる場合、指導費
が受け取れるようにすること。
- ・学校の部活を指導している教職員が地域クラブへ希望すればかかわることができる仕組
みがあればいいと思う。
- ・当面の間であれば名前だけを地域クラブ活動と位置づけて勤務時間外に教職員がボラン
ティアとして活動を監督すれば生徒の活動に限れば維持が可能だと思う。その場合であ
れば協力できるが県外遠征や夜間練習、土日を使って本格的に野球をやりたい子ども、
やらせたい保護者と同じ熱量での活動は上記の理由で難しい。

- ・ 山陽小野田市の生徒を1箇所に移動させる方法を整えること。
- ・ 当面指導者のいる競技に絞って活動する

※回答該当者：105人

問 1 5 これまで生徒向け説明会を 3 回、保護者向けの説明会を 2 回開催し、今年度中にさらに 1 回開催する予定であり、その際、各部活動の今後の見通しや地域クラブ活動団体の一覧表を先生や生徒たちに公開していく予定ですが、情報を受け取る方法として、市のホームページや広報紙、各小学校へのチラシ配布を想定していますが、その他に望まれることはありますか



※回答該当者：105人

問 1 6 それはどのような手法ですか

- ・ SNSでの発信。新聞やテレビ等による報道。
- ・ 説明の様子をYoutubeでのライブ配信し、アーカイブで残すこと、SNS等の効果的な利活用（そこにYoutubeのリンクやQRも貼り付ける）、スポーツ少年団のようにチラシは学校だけでなく、市の施設にも貼ること。
- ・ 指導者による紹介動画の配信
- ・ 説明会の様子あるいは説明用の動画を撮影して動画投稿サイト上で見られるようにすると都合が合わない保護者や、生徒がより情報を受け取りやすくなる。
- ・ 保護者へも確実に伝わるように学校からの配信メールなどもあるとよい。
- ・ 保護者、生徒に関しては、少しは理解が進んでいると思いますが、地域に関してはまだまだだと思う。商店街や、商業施設、交流センターや各自治会会館などに大きなポスターで説明するなど、情報を取りに行かなくても、いろいろなところで目にするようなものを作ってみるのもいいのではないのでしょうか。地域クラブ活動は、地域の方々のご理解、ご協力がとても大切だと思うので。

※問16-YESのみ回答(回答該当者：6人)

問 1 7 その他、山陽小野田市における地域クラブ活動に関して御意見・御要望等がありましたら、御記入ください（自由記載）

- ・これまでの部活動における教育的効果を失わないような、地域クラブ活動の仕組みを構築してほしい
- ・生徒たちがやりがいを感じることができて、卒業後の進路にも繋がる地域クラブになることを期待している
- ・部活動は生徒の成長に不可欠だ。教員の過重負担を解消するため、地域全体で指導者や運営を担う文化を早期に醸成すべきだ。質の高い活動を維持しつつ、生徒が打ち込める場を持続可能な形で確保するための公的支援を強く要望する。また、地域移行後も、部活動が単に競技力向上を目指す場ではなく、礼儀や協調性、目標達成への努力など、生徒の人間的な成長を育む場であり続けることが重要と思われる。勝利至上主義に偏らない、教育的な価値を地域全体で大切にするような部活であってほしいと思う。
- ・山陽小野田市を盛り上げる意図で、大々的に環境や指導者を高めに整えてみてはどうか？昔のように、サッカーと言えば小野田市！の様な...バドミントンと言えば柳井市ですよね...
- ・指導員になる教員がいるのはいいが、指導員にならない教員が学校の業務を負担するようなことにならないようにするべき。指導員になる教員が定時に退勤することによって、その後の時間外勤務（例えば、保護者対応など）の負担をその他の教員とするようなことになってはいけない。
- ・部活動を継続して続けるのではなく、来年度から新しい部員の募集を止めることを早めに決め、年内には小中学生の保護者や地域住民に知らせてほしい。学校での週2回の部活動は、指導を望まない先生にとっても、望む先生にとってもストレスとなっているのが現状。このままでは、市内の子どもたちの競技力は低下し、近隣市クラブチームへの流出がますます進むと思う。「レノファに会えるまち」としての強みを活かすなら、部活動を地域に移すことを契機に、小中学生のスポーツ振興に力を入れる方が、地域の魅力づくりや人口増加にも繋がるのではないかと。また、中体連の大会でも指導者の報酬が最低賃金以下である現状や、それ以外の大会ではさらに低い待遇で活動が支えられていることは、現代の常識から見ても大きな問題である。この状況は広く公に伝えられるべきであり、改善が求められる。思い切って予算を確保し、小中学生のスポーツ活動を学校から独立させることで、指導者に適切な待遇を提供し、子どもたちが安心して活動できる環境を整えてほしい。
- ・先日、野球部を立ち上げようとする指導者が来校され、子どもたちに直接チームの説明したいと言われた。アポなしであり、授業中であり、どこのどなたかもわからない方を子どもたちと対面させることは難しい。しかしながら、折角、地域クラブ活動に新たに取り組もうとしておられる方を大事にしたい。市を通した紹介があれば、つなぎやすい。紙媒体だけでなく、顔がわかるもの、もしくは、動画などいつでもこちらの都合の良い時に説明が聞けるのであれば、ありがたい。
- ・地盤が整っていない状態で無理に地域移行を進めても破綻するだけだと思う。その時に、一番迷惑を被るのは子供たちだ。大人の都合で子供たちが振り回されるのはかわいそうと思う。それぞれの自治体で状況は異なるはずなので、山陽小野田市の現状にあわせた方がよいと思う。全国でも地域移行せずにそのまま学校単位で部活を行う決断をした自治体もいくつかあります。そのため、これまでどおり学校ごとに部活を行うという選択肢もあってよいのではないかと。部活が地域移行した場合、文化祭での吹奏楽の演奏がなくなる等、さびしさを感じてしまう場が少なからず出てくると思う。
- ・教職員の部活動従事は平日の勤務時間内に限ることを強く望む。昨年度まで宇部市で働いていたが、宇部市はそのような方法を取っていた。部活動の顧問を命ぜられたことにより、特定の教員が時間外勤務を強いられるのは不公平に感じる。早く地域クラブに移行してほしい。

- ・ 中学校の部活動は学校で行う日々の練習だけでなく、様々な関係機関との協力や調整など非常に煩雑な仕事がある。特に選手権大会は競技連盟はもちろん開催市や県との後援・共済承認や施設の貸借とその経費など。さらには勝ち上がって中国大会全国大会に出場すると宿泊関係などの仕事があるため、それらを考慮したうえでの指導者選任と依頼をしないと大きな問題に発展する可能性もある。性急な変更よりも教員の希望者を指導員として市が雇用し責任範囲や仕事の内容などの雇用条件を明示して移行期に備えるほうが現実的と思われる。
- ・ 部活動の地域展開にあたり、体育協会の各専門部でどのような議論が展開されているのかを知りたい。
- ・ 他の市はもう部活動を地域移行しているところもある。山陽小野田市は実施するのが遅いと思う。授業準備もいつも勤務時間外でないと終わらない。授業にもっと力をいれたいが、なかなかその時間の確保が難しい。テストのときも中間テストは1日で実施した後、部活動があるため、採点は部活動後。夜遅くまで残って採点をしなければならない。とにかく早く改善してほしい。
- ・ 学校・行政・地域が同じ目線で地域移行に取り組めるとよいと感じる
- ・ 今までの部活動であっても、子どものために頑張ろうとしている人の仕事の負担が大きかったので、地域の子どものためにチームを運営してくださろうとしている方の負担が増えていくのは容易に想像できる。その負担を軽減しないと、手を上げる人は増えていかないと思う。
- ・ 進んでクラブを受け持つという方が増えない限り、現段階でスムーズな移行は難しいと思う。市でクラブの受け持ちをしていただける方を探し、依頼をしていただくのが自然な形だと思う。来年度に受けもつつもりのない教員からお願いするのは不自然なのではないかと思う。嫌な仕事の押し付け合いのようになっているのが現状だと思う。受け持つ人材がいないのであれば、そのクラブの存続を打ち切るしかないのではないだろうか。
- ・ これまであたり前にあった中学校の学校部活動を改革するので、困難は多いと思われるが、子どもの選択肢を増やすことと教職員の負担を軽減することを意識して考えていきたいと思う。
- ・ 生徒たちが不安にならないように、見通しはしっかり立てて欲しいと思う。
- ・ 国策なので、教員ばかりに一方的に負担がかかることは避けてほしい
- ・ 実現可能なものを出していただきたいと強く思う。
- ・ 地理的、経済的、指導者の意図などの条件で地域クラブ活動に参加できない生徒がいいることを望む。
- ・ 何度も分科会を実施してもあまり話が進まなかったにも関わらず（少なくともソフトテニス）昨年末にかなり具体的な方針が出された。その後、広報で指導者等を募集したけれどもあまり集まっていないと聞いた。さらに来年4月から実施するという方針が新チーム以降に変更された。学校で行われた説明会では60の団体を集めるという話も出されましたし、生徒の希望を聞く際も例として「アーバンスポーツ」を出されました。市としての方針がぶれているように感じ、大風呂敷を広げすぎているように思われる。何らかの方針を出すのであれば、現状をもっと把握し、実現可能なものを出していただきたいと強く思う。
- ・ 難しい問題ですが粘り強く対応していただきたい。始めは批判等もあるが時間が経てば理解も深まるのではないかと。

- ・吹奏楽などは練習の場所や指導者（各パートのレッスンをしてくださる方）、楽器運搬などお金がかかってしまう部活動のため、他の部と同じ予算だと運営が厳しい部分もある。今まで築き上げてきたものがなくなるのは、OBとしても、教員としても残念と感ずるのでそのようなことにならないようにしたい。生徒の意見の中でも大会に出たいから練習したいけどできないため、悔いなく活動できるように考えてもらえたらと思う。
- ・昨年の12月あたりでは、8年度4月からの部活動は火・木のみの実施という話であったのに、いきなり現2年生の引退まで今年度と同じという方針に変わったことに驚いた。時期をずらすことについて、そんなに多数の意見があったのか疑問である。来年の6月あたりになると、同じ学校でも部ごとに練習日が違い、混乱すると思われる。一度決まって保護者にも通知したものを、一部の声で変更するのはいかなるものかと思った。地域化についてヒアリングをされたり、説明会を開いたりと積極的に動いてくださっていることは重々承知している。
- ・地域クラブ活動に関わりたい教職員が、現状の部活動を引き継ぐ形ができればいいと思う。また、学校の施設や今現在使用している部活動の道具等の使用を可能にしてほしい。そうすれば保護者の負担も減ると思う。
- ・方針が二転三転して、正直、困っている。それと、美祢市や長門市のように行政を中心に進めていただけたら助かる。保護者の負担が増えるのが心配だ。軟式野球連盟の登録料や参加料、道具の準備、県大会参加料など、お金がかかるが、学校の予算だけでは足りないもので、一部保護者に負担していただいて参加してもらっているのが現状だ。地域クラブを立ち上げていないところは、中学校としての出場ではだめなのか？
- ・地元の指導者の確保が難しいので、積極的に声をかけてほしい。将来的に地元の指導者がいないと続かない。活動場所と活動時間を調整してほしい。教員が地域クラブに関わるのに、遅い時間の活動は正直しんどいと思われる。部活動の時間に近い方が助かる。ただ、そうすると一般の方は指導に入りにくい。早い時間に合わせられるのはスポ少の指導者だと思われるが、小・中学生両方を見るのは大変だと思う。時間と人の調整が難しい。
- ・一日も早く、部活動が地域移行・地域展開することを待っている。
- ・地域住民、保護者、教職員いずれにしても属人的なクラブチームでは持続不可能で解散や結成が繰り返され金銭的・心理的負担が高まりそうであるので複数の競技・文化活動を総括する組織を各市で作り、引き継ぎが容易な管理体制を作ることによって不安が多少なりとも解消されるのではないかと考えた。
- ・地域クラブ活動内で起こった子ども同士のトラブル、保護者とのトラブル、指導者とのトラブルは、学校に持ち込まないでほしい。
- ・指導者が確保できておらず、現状探しておられる方も即席の指導者のように感じる。少なくとも今後5年は指導をできるような方を募り、その方の関係から更に探してもらう循環を作る。報酬の面は部活動がない代わりにその競技をすることのできる場であるはずなので、高額な報酬にしない。
(道具などは必要なものは各学校のものを使うことでしばらくは過ごせるはずだ。)

※回答該当者：105人

